

議 事 録

会議の名称	第 5 回長浜市都市計画マスタープラン改定委員会		
開催日時	平成 28 年 11 月 1 日（金）9 時 30 分～10 時 30 分		
委員 ■出席 □欠席	<p>■①及川 清昭 （立命館大学理工学部 建築都市デザイン学科 教授）</p> <p>■④轟 慎一 （滋賀県立大学環境科学部環境 建築デザイン学科 准教授）</p> <p>■⑦鹿城 律人 （長浜北商工会 副会長）</p> <p>■⑩塚田 益司 （長浜商工会議所 副会頭）</p> <p>■⑬冬木 克彦 （（公社）滋賀県宅地建物取引業 協会 常務理事）</p>	<p>□②小浦 久子 （神戸芸術工科大学芸術工学部 環境デザイン学科 教授）</p> <p>■⑤饗場 善秀 （東浅井商工会 副会長）</p> <p>■⑧高橋 賢一 （レーク伊吹農業協同組合 前代表理事理事長）</p> <p>■⑪西邑 茂 （びわ商工会 副会長）</p> <p>■⑭速水 茂喜 （長浜土木事務所 次長兼管理調整課長）</p>	<p>■③土山 希美枝 （龍谷大学 政策学部政策学科 教授）</p> <p>□⑥今村 潤 （長浜青年会議所 直前理事長）</p> <p>■⑨田邊 太美雄 （社会福祉法人長浜市社会福祉 協議会 副会長）</p> <p>■⑫橋本 治太郎 （北びわこ農業協同組合 代表理事理事長）</p> <p>■⑮川村 美津子 （NPO法人 つどい 理事長） ＜敬称略＞</p>
事務局	<p>長浜市：藤井市長、中川次長兼都市計画課長 （都市計画課）山口副参事、山口主幹、二宮主事</p> <p>玉野総合コンサルタント(株)：西尾、高柳、都木</p>		
会議の内容	<p>1 あいさつ 中川次長兼都市計画課長</p> <p>2 議事 （1）長浜市都市計画マスタープラン最終案について 資料に基づいて説明 （2）長浜市都市計画マスタープラン資料編について 資料に基づいて説明</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会 藤井市長から謝辞</p>		
質疑・応答等	<p>2 議事</p> <p>（1）<u>長浜市都市計画マスタープラン案について</u></p> <p>（2）<u>長浜市都市計画マスタープラン資料編について</u></p> <p>委員 ホームページには、本編・資料編の両方を PDF 形式で掲載する予定か。また冊子としては、何部をどのように配布するのか。</p> <p>事務局 ホームページには、PDF 形式でまとめて見られるように掲載する。また、製本としては 100 部を予定しており、当委員会、都市計画審議会、長浜市議会に配布する予定である。</p> <p>3 <u>その他（各委員からのコメント）</u></p> <p>委員 計画というのは作ってからが重要であり、作って終わりというのではなく、地域との関</p>		

	わりや関連部署との関わり、実施計画の策定などに活用していただき、この場で議論したことが、少しでも長浜のまちの発展につながることを願っている。
委員	もともと小さな自治会区では、若者が生まれ育った地域に住み続けられないという問題があり、自治会が成り立たない事態になっている。この計画のように大きな観点も重要だが、もっと小単位で地域のことを考えていくことも重要であると考えます。
委員	P1「1 都市計画マスタープランとは」の中に、地域の将来像や課題、整備方針を市民と行政が共有するとあるが、これをどうやって実現するかということが重要になってくる。どこの行政でも都市計画マスタープランは作られているが、ただ単に作って終わりではなく、これをベースにオール長浜として、市民とともに計画を実現していただきたい。
委員	計画がどの程度実現されるのか、どう見直されていくのかということが心配である。また、人口がここ5年間で6,000人、世帯数が800世帯減少しており、これによって税収が減るということは、予算も減るということであるため、それをどのように克服していくのかということも危惧される。
委員	福祉という立場から参加したが、福祉事業については、直接的には触れるところではなかった。今後の計画の具体化として、P24,25にまとめられている重点的取組の進捗について着目していきたい。
委員	都市マスの中身については、一般市民にはあまり知られていないので、これを中心に様々な計画とのつながりをわかりやすくしてもらえると全体の統制が取れるのではないかと。都市計画マスタープランを制約のための計画ではなく、広がりを持たせるような計画としてほしい。「日本の祭り in 長浜」のときのように、地元が輝きながらも全体として統制が取れている中で、長浜が広がっていけばよいと思う。また、今後は、長浜市だけではなく、滋賀県東北部として米原市や彦根市も含めた議論に発展してほしい。
委員	いろいろな地域でまちづくりの活動があり、NPOの方々も様々な地域貢献をされているので、都市計画マスタープラン記載事業が、こうした地域の活動に協力できるようになると、より具体化できると思われる。
委員	農業については、後継者不足などの深刻な問題を抱えているが、都市計画マスタープラン上ではあまり議論を深めることができなかつたこともあり、少し残念に思う部分もあった。
委員	都市計画という少し大きすぎるテーマということもあり、(宅地建物取引)業界としてはあまり意見ができなかつたが、今後は、地域のまちづくりに一番関連する業界として、都市計画マスタープランの内容を地域に理解していただけるよう取り組んでいかなければならないと考えている。
委員	長浜土木事務所としては、湖北圏域河川整備計画の策定を進めていたが、ようやく9月末に認可を受けた。今後はこの計画に沿った整備も実行していくことになると思うので、またみなさまのご理解とご協力をいただきたい。
委員	P21の都市像には、言葉一つ一つから物語を感じ取れるものであり、とてもいいものであると感じた。また、一つ一つのページの中から、様々な部署が連携していることがわかり、市民と行政においても人と人とがつながりを持ちながら、今あるものに価値を見出していくような長浜になっていくのではないかと期待を抱いている。
委員	合併から10年が経ち、長浜市を一体の都市として捉えようということで意義のある

	<p>計画だったと思う。ただ、今ある施策上の問題を拾い上げ、それに対して一定の決断をするということまでは至らなかったが、都市計画マスタープランというものが大枠の方針であることを考えると、難しいことであるとも感じている。委員会自体は、決断をすることを責務としていたわけではないが、人口減少が進む中でどういったまちづくりの施策を進めていくのか、人口を増やすことが全てではないが、状況を踏まえて、我がまちの解答として方向性を示すところまで至っていなかったのではないかと私自身反省している。計画として残された課題はあるとは思いますが、それぞれの地域に対して現状と課題が示されており、今後の10年間、様々な施策と結びつける形で活用して行っていただきたい。これから、市民や議会、行政の関わり合いの中で、現状の施策課題に取り組むということ積み重ねて行っていただきたい。</p>
事務局	<p>【欠席の委員からのコメント代読】マスタープランの内容は、地域の実情を反映するとともに、今後の方針を明確にしていく。都市計画区域変更のためのマスタープランではなく、都市計画マスタープランに示す地域像を実効性のある都市計画として法定しようとする、都市計画区域の変更が必要となる。こういったストーリーであることを改めて認識してください。</p>
事務局	<p>委員のご意見を受け、湖北圏域河川整備計画については、本編への修正と資料編への追加をさせていただくので、事務局に一任させていただきたい。(委員会承認)</p>
	<p><u>4 閉会（委員長からのあいさつ）</u></p> <p>私は長浜市の合併時から都市マスに携わっている。将来像の表現に関しては都市マスの性格上、どうしても抽象的な表現になってしまうことに、苛立ちを感じることもあったと思う。しかし、都市計画マスタープランのようなバイブルは、細かい計画を策定する際に必要になってくるものである。大学においてもキャンパスマスタープランというものがあり、詳細な計画を策定する際には必ず参照されている。これからのまちづくりは市民が中心となって進めていくものであるが、草津市では、関西で初めてUDC(アーバンデザインセンター)が誕生し、産民官学が一体となってまちづくりを進めている。市民が身近なまちづくりに対して自由に意見を言い、市の考えを理解し、交流できるような、まちづくりのプラットフォームが長浜市にも広がっていき、身近なまちづくりが進められることを期待している。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
委員長	